



和歌山を科学するためのネタ本

“オルタナティブ”な地域学を和大から

2014年度版

最初の足跡



どうせなら…積雪の最初の足跡は自分のものであって欲しい。

研究でも同じこと。先に足を踏み入れた誰かの足跡だらけのテーマを後追いするのはツマラナイ。


誰の足跡もない純白の雪原に、最初の一步を残したいもの。和歌山には、自然、歴史だけでなく、民俗、文化、社会、産業の分野でも、世界に公開する価値のある「研究の原石」が手つかずのままでゴロゴロしている。チャンスは大。君が研究へと踏み出しさえすれば、最初の足跡は君のものだ。

経済か？、環境か？、の二者択一とは別の視点「第三の選択肢」を模索する”オルタナティブ”な地域学。

そのために、分野に関係なく徹底的に和歌山を調べ尽くす。それは、何よりも斬新で未来に役立つ科学となる。

本書は、和歌山を研究するネタ、しかも「手つかず」のテーマを和大の研究者が厳選して一覧整理したものだ。だから、あえて有名どころは取り上げていない。君が「分野の第一人者」になれるチャンスが、ココにある。

果無




果無…君はこの字が読めるか？。はてなしと読む。そう、延々と続く和歌山の山々は、まさしく果てがない。自然と全うに付き合うことのできる少数の人々だけが過ごすことを許されたかのような、荘厳で神秘の世界。果てしないのは、山々の姿だけでなく、自然の営みや人々の暮らしに関する手つかずの学術情報も同じだ。それらをひとつひとつ科学でひもとく。きっと、誰も見たコトのない果てを見ることができるだろう。

清らか

An underwater photograph of a riverbed. The water is clear and blue-green. The riverbed is covered with smooth, rounded rocks of various sizes. A person wearing a blue diving mask and snorkel is visible in the lower right, swimming near the bottom. The surface of the water is visible at the top, showing ripples and reflections of light.

川の水は飲めるか？。答えは、YesでもありNoでもある。
山から湧き出したばかりの谷水は、たいていは美味しく安全に飲むことができる。
人里を流れる川の水は、そのままでは飲めない。昔は、人里の川の水だってそのまま飲むことができたと聞く。
命の源となる水をいつまでも清浄に保ち、それを抱く自然を守る方法、
今も大自然を残す和歌山のフィールドに行って科学的に調べれば、その答えは、きっと分かることだろう。

豊穰



豊かな実り…山あいの狭い耕地で、少しずつ積み上げた結果が人々の暮らしを支えてきた。誰の目にも懐かしい農村風景は、人々の生業（なりわい）の中で維持されてきた、いわば結果の風景。今では、様々な生業としての苦労や、その非経済性に耐えきれず、懐かしい農村風景は徐々に失われている。過疎化、農村活性化の言葉が言われて久しいが、一気に解決する打ち出の小槌はない。だからこそ現場に通い、風景が失われた理由を科学的に丹念に調べ、ひとつひとつ解決してこそ見える未来がある。大学は調べてこそナンボ。直感だけで社会を扇動するな！

技



和歌山では林業が盛んだ。山がたくさんあるからだ。長年の「生業（なりわい）」の歴史は、数々の技術を生み出した。環境面から悪者にされることが多くなった人工林での用材林業。だけど、そこで生み出された、見事な技術には圧倒される。ところが、このような「技」を持った人は、今ではほとんど減ってしまっている。「技」の継承が停滞してしまった現在は、それらに置き換わる新しい技術が必要となっている。誰かが対応しなければ技術どころか生業そのものが減ってしまう。山は荒れ放題となって、災害も起こりやすくなるかも知れない。と同時に、資源も供給されなくなる。はたして、それで良いのだろうか？。今、君の研究が必要となっている。

恵み



和歌山は美味しい！。海の幸、山の幸、里の幸であふれている。

オーソドックスな食べ方は、古くさい郷土料理に映るかも知れないが、食べてみると驚くほど美味しい。


ウツボ、サメ、マンボウ、ゴンパチ（イタドリ）、ヒロメ…和歌山でないと手に入らない食材も多い。

工夫すれば極上の最新料理にもなる。食を守り、新しくするために必要な要素は、調理法の工夫だけでない。

食材を提供する農業、水産業、食品加工業、流通業も欠かせない。それらを支える自然環境も良好でなければ、

食を安全に維持できない。食をテーマにするだけでも、どこまでも研究テーマは拡大していける。

静寂



ひっそりと…痕跡だけを残すかつての賑わいがある。今は静かだが、昔はたくさんの人々で溢れていた。役割を終え、人々が去ると、そこには再び静寂が訪れる。時代とともに人々は暮らしの中心地を変えていく。人々が去っていくばかりの土地もある。2007年からの10年間で無人村、廃村となることが予想されている集落は、全国で423カ所を越えるという。過疎化、限界集落、山村再生、撤退の農村計画…山村から人口が減っている今だからこそ、記録を残す。そこから学べることは多い。ノスタルジアに偏らず、社会を扇動しない冷静な分析を行うチャンスが、今、そこにある。いや、今しかない。最後の一人が去った後では、研究すら困難になる。

怪し

南方熊楠…世界的な博物学者、K. Minakata。熊楠は、熊野の山中で妖怪ガキ（ダル）に取り憑かれたことがある。妖怪が生まれた背景には何があるのだろうか。妖怪に取り憑かれない、災いを防ぐために人々が考え出した様々な生活の智恵。写真のように棚田が土石流を防いでいたとか、山崩れを起こさないためには山頂付近の山の木を切ってはならない、などと災い封じが言い伝えられている。和歌山に今も残る数々の妖怪伝承。河童、舟幽霊、天狗、人魚、妖怪の総大将めらりひょん…ひとつひとつを科学でひもとくと、今の時代を安全に、安心して快適に生きるヒントが隠されているかも知れない。

記録する



忘れてはならない。人々は様々な大事な記憶を脳から取り出しては何か記録する。

過去の記録を再分析することから得られる新しい知識は多い。

散在している記憶や記録を再整理するだけでも重要な研究成果となる。


津波や洪水の痕跡、人々の営み、古い写真、神社仏閣の位置、廃校の位置、閉店された山村の商店の位置、工場跡地、放棄農地…まとまった情報として記録が残されていない、人々の営みの記憶、自然の痕跡を、今、記録し直すことから見えてくる未来がある。こんな手間のかかる研究は、大学でしかできない。

挑む



この奇妙な風景はなんだ？。秘密基地でも、地球防衛軍の施設でもない。絵画のキャンパスでもない。新たな林業を模索する実験風景だ。森で樹木を育て、同時に太陽光発電でエネルギーも獲得。同じ場所で資源をマルチに産み出す「樹林地ソーラーシェアリング」の実験を行っている。おそらく世界初。収入減で経営難の林業での収入増を目指しての挑戦的な実験だ。本当に儲かるのか？。大学は、人の目には「ばかばかしい」と映る研究ができる唯一の存在かも知れない。だからこそ、可能性を求めて果敢に挑戦する。

漕ぎ出す

A wide-angle photograph of two people kayaking on a vast, sunlit sea. The sky is filled with soft, white clouds, and the sun's reflection creates a shimmering path on the water's surface. The kayakers are small figures in the distance, one in the center and another further to the right. The overall mood is bright and hopeful.

漕ぎ出せ！。そこには、レールも道もない。行き先は君自身が決めれば良い。……
教員など先陣である研究者の後に続くのも悪くない。どこかに連れて行ってってくれることだろう。
だけど… 行き先を自分で決める時期があっても良い。研究者だって、かつては若く、無知で、無策だった。
歴史は前にばかり進まない。経験を積み重ねた年長者に振りかえる勇気の無いことは意外に多い。
若い君達だからこそできる温故知新。さあ勇気を持って漕ぎ出せ！。誰も到達したことのない未来へ。
和歌山は手つかずの研究ネタの宝庫だ。だからこそ、君達自身が行き先を決めることができる。

和歌山は手つかずの研究ネタで満載！ まずは図書館やネットで調べてみよう。興味が出たら、現場に行って調べ、分析し、論文で発表する。

	自然	歴史	文化/文学(伝承)/民俗/芸能	社会/政治/経済/行政/世相	産業
和歌山全県	大水害が自然に与えた悪影響 和歌山にもなだ名をもつ動植物 温泉天国和歌山 西日本なのにアズマモグラが息		和歌山の難読地名 各地の朝鮮語話みの地名 なぜ和歌山にウナギ屋が少ない？ 柏餅とサルトリイバラ	原発を担んだ紀伊半島	
紀北/紀中全域	県内でも増える？コクチバス	湯浅党と隅田党 紀北街道	農業技術書「地方の聞書」 紀ノ川で多くみられる雨乞い伝説 紀ノ川段丘での水利用 紀ノ川中流の巨人(怪力)伝承 和風ホットケーキ「ふな焼き」		
和歌山市	友ヶ島の自然 大年神社のホルトノキ林 紀の川河口、和歌浦の干潟 紀ノ川のアカメ(19年ぶり) 結晶片岩「青石」 花降り現象の謎	鳴滝遺跡の巨大倉庫群 紀ノ川の旧河道と新田開発 自然堤防上の集落 化学産業と軍事産業と大日本帝国 戦災で統合された小学校	杉村楚人冠とアサヒグラフ 日本初のアニメーター、北山清太郎 高岡ほど進んでいない万葉研究 木ノ本の獅子舞 紀州藩の風流の大祭「和歌祭」	景観保護に失敗した和歌浦と 成功した瀬の浦の比較	山業寅楠とヤマハ 高橋克己と肝油 山田式飛行船 酒どころ、和歌山～海南 歌麿でヒットした皮革商品
岩出市/旧・打田町	根来山げんきの森 愛宕山のオオムラサキ 紀州の植物研究家、小川由一	細かく分かれた荘園	紀ノ川の複雑な用水路 タマネギ小屋の風景と宅地造成		
旧・貴志川町	オニバスの自生地	細かく分かれた荘園	岡山電鉄が助けた貴志川線	ライオンもいた、お池遊園動物園	
旧・桃山町	桃源郷の風景	荒川荘の悪党		桃の直売所に殺到する消費者	急成長するモモ生産 森のアイスクリームチェリモア
旧・那賀町	和泉葛城山のブナ林 飯盛山の自然とカツラ、笹山	旧名手本陣と妹背家 丹生屋村と名手荘との用水相論	花岡清村と薬草研究と和歌山医大	早くから取り組んだ地産地消給食	日本一のハバクサン産地
旧・粉河町	和泉葛城山のブナ林 龍門山の蛇紋岩地植生 龍門山のギフチョウ 角間木谷の自然林	丹生屋村と名手荘との用水相論 海賊とも関係した粉河八郎 実学社と猛山学校	粉河節の栄枯盛衰 鬘龍が特徴のだんじり祭り「粉河祭」		
かつらぎ町	角間木谷の自然林 四色川のホテル保護	丹生津姫神社と高野山	串柿の風景と標高別集落	山村留学の発祥	苦戦するカキ生産
旧・高野口町		化学工業と公害	雨引山(あまびきやま)と雨乞い		幻の布、再織
橋本市	谷奥部の急峻な地形と斜面農地 ヒメタコウチの息息湿地の減少	日本の大数学者、岡潔	河川敷の墓地利用と半水葬文化		へら竿の生産と若い後継者がいる
高野町	摩尼山、楊柳山の自然林 コウヤマキ林(人工)		高野紙と高野十郷 高野六木の保全		源次郎豆腐
旧・海南市	北野上の里山風景と未来遺産 南野上の斜面集落と棚田跡 黒沢山沼池、蛇紋岩地植生 タイワンザル問題 自然史博物館：オオカミの剥製	野上電鉄のあった頃の風景 井沢弥惣兵衛と亀池、新田開発 紀州番産地 黒牛の岩	新田長次郎と温山荘	和大・ソーラーシェアリング研究	健闘する雑貨産業 酒どころ、和歌山～海南
旧・下津町	長保寺のサクラと自然林 吉野にも劣らないヤマザクラ山 ミカン山の段々畑 下津のオオウナギ(北上?)		山上のパワースポット鳥姫神社		
紀美野町	生石山の草地植生 棚田のヒガンバナ 真国川の清流とホテル	野上谷商人の全国行商 岡本家文書	野上電鉄のあった頃の風景 高野山の麓の多くの丹生神社 多くの八幡神社 旧毛原小の長い廊下の木造校舎	健闘する雑貨産業 やたらと多い児童会館 別の学校に再生された廃校	

和歌山は手つかずの研究ネタで満載！ まずは図書館やネットで調べてみよう。興味が出たら、現場に行って調べ、分析し、論文で発表する。

	自然	歴史	文化/文学(伝承)/民俗/芸能	社会/政治/経済/行政/世相	産業
有田市	失われた「夏瀬の森」の防災機能 有田川干瀬域、干瀬のチワラスボ 宮崎ノ鼻の海岸植生 ミカン山の段々畑 吉野にも劣らないヤマザクラ山	鶴飼川「徒歩鶴(かちう)」 地名からみる有田川の河道変化 東牟婁の津荷漁師との関係	スポーツ文化と地域発展 「エリ」の出口 意外な名物「エビせんべい」 箕島の和紙園	有田鉄道 みかん列車	タテウオやアオリイカを韓国直送 数取り線香発案者、上山栄一郎
旧・吉備町	黒沢山沼池、蛇状岩地植生	狗奴国尾張・美濃・伊勢・紀伊説	山上集落と谷底集落と伝教 うばが滝とかくし田の民話	同和問題の先進的解決手法 ヤマギシ会の実験地	
旧・金屋町	鳥屋城の化石 モササウルス跡の化石 白馬山の自然林		山上集落と谷底集落と伝教		
旧・清水町	白馬山、若藪山の自然林 大規模林道と自然林 沼田、沼、連井の棚田	28水害で被災した水力発電 もうひとつの熊野古道	山上集落と谷底集落と伝教		ワサビ栽培と山菜料理 コンニャクの発祥 ブドウ山椒と生薬
旧・花園村	今も残る28水害の痕跡		花園の「花」の意味するところ なぜ「恐竜」か？テーマパークの誕生	唯一無医村	
湯浅町	湯浅湾に流れ込んでいた旧有田川	湯浅人の開拓スピリッツ 解体新書を出版した須原屋 天保の飢饉と菊地海荘 各地に漁場を開いた橋原家 紀伊国屋文左衛門	醤油屋のPR作戦(サブカルチャー) 吉川の地名:死人,死民谷,死山 三面獅子舞		
広川町	広川のシロウオ 西海沿岸の海草群落 雲巖寺山の風衝低木林	ヤマサ醤油と濱口家	紀州男山姥 中世の芸能「広八幡神社の田楽」	風力発電促進と騒音問題	自然エネルギー産業
由良町	白崎海岸と石灰石 黒島のハカマカズラ自生北限地 アコウの巨木	アシカ島でのアシカの捕獲、利用 軍事基地と空襲と海上自衛隊 昭和42年の赤痢の大流行	興国寺と醤油と天狗 天気予報法の伝承		
日高町	阿尾の湿地(海跡湖) 蟻島のタブノキ林		徳本上人 冬の大根干しの風景 日高獅子	原発計画の中止(小浦)	クエによる町おこし 原谷のクロクツク林
美浜町	燈樹ヶ浜の衰退するマツ林 日ノ山のウバメガシ林 弁天島のウミネコの繁殖地		アメリカ村と移民文化	原発計画の中止(阿尾)	
御坊市	王子川のハマボウ ウミガメ産卵の北限	王子川と日高川の千本杭護岸 蘭学医師「羽山大学」 御坊臨港鉄道	野尻抱影と大佛次郎の兄弟 烏天狗のミイラ 四つ太鼓が特徴の「御坊祭」	核中間貯蔵施設(検討中)	バイオテクノロジーと施設園芸
日高川町	ユーカリの人工林 独特の治水技術(上流域での震災) 上阿田木神社のスギの巨木 寒川、西ノ河の自然林と林道 若藪山の自然林	牧野兵衛 三百瀬の村八分と置約書 井原西鶴一族の出身地	「清姫伝説」が伝承された背景 名女形「芳澤あやめ(六代目)」 鮎の出口 美しく整然と積まれた集落の石垣 上阿田木神社の八咫	笑い人形 全国高校分校サミット、中津分校 寒川家：日本初の女性森林組合長	薬用植物資源研究センター跡 ホ口ホ口鶏
印南町	切目川のハマボウ 切目川のオオウナギ(旧北限) 切目川のナガラホトケドジョウ		けんけん踊り(雑賀踊)	切り目川ダムの建設と住民感情	真妻ワサビの発祥 南宮焼の発祥
みなべ町	小殿神社のイスノキ林 川又のトガサワラ林		幻に終わった三里峠サーキット 清川小学校の木造校舎	ウメ枯れ問題はどうか？ 健康保険料日本一安い、は本当？	町役場「うめ課」

和歌山は手つかずの研究ネタで満載！ まずは図書館やネットで調べてみよう。興味が出たら、現場に行って調べ、分析し、論文で発表する。

	自然	歴史	文化/文学(伝承)/民俗/芸能	社会/政治/経済/行政/世相	産業
紀南全域	5種類のサンショウウオ山上の自然林を 残す熊野式林業 紀州犬とオオカミ		狼の干し肉(日本人の肉食文化) ウツボ食 古産流獅子舞		
旧・龍神村	護摩壇山周辺の自然林 亀谷の自然林		小家坂の吊橋など多くの吊り橋	役師	バイオマスエネルギー
旧・田辺市	南方熊樵が通った神島の暖地植生 アマモの減少とコアマモの増加	南方熊樵の痕跡 熊野水軍の本拠地 湯川秀樹の実父「小川琢治」	ナショナルトラスト運動の持続性 野長瀬挽花 都市祭礼「田辺祭」	増え続ける住宅地 高速道路の延伸と消費の停滞 群雄割拠する地方新聞の地だった	拡大する消費と全国チェーン店 仏手柑
旧・中辺路町	水上や笠塔山の自然林 廃村になった兵生と坂泰の自然林	中辺路の王子間の距離の短さ 野長瀬家と横矢家	「道成寺物語」のモデル清姫	世界遺産が地域にもたらしたものの 企業の森が地域にもたらしたものの	
旧・大塔村	大塔山境の自然林、南限のブナ林 大杉谷、黒蔵谷の自然林 カモシカ保護 紀伊半島固有種オオセンコゴナ 熊野川の大蛇伝説と土砂災害		三川の恋しい子守唄 関東系のアクセントを使う住民 将軍川と日下将軍義龍 山菜(紀伊半島は全国より少ない)		あすなる木守の郷と若者福祉雇用 松屋島の復元
旧・本宮町	武住谷奥の針葉樹の自然林 果無、東ノ川の自然林 ユノミネンダ自生地 皆地のタガメ 三体の月と幻月現象 温泉の湯量減少と地震と森林	等しく不便な山頂の小学校	山間部での平家の落人伝説 草津温泉の温泉番付と本宮の湯 霧鼓稚児による「湯登り神事」	世界遺産が地域にもたらしたものの	地熱発電構想 音無茶
上富田町	富田川河口のハマボウ 富田川のオオナギ 堰の無い川としての富田川 小神社と南方熊樵 明治に多発した洪水と森林荒廃	山王古墳群 富田川の川丈を遮る中辺路	役の行者と敷馬深観音 富田川の数々のカッパ伝承 小栗判官伝説と一遍上人 血深城という名前の古城	食糧物資支給制度 上富田のおしん	
旧・白浜町	三所神社の社殿(ホルノキ) 白浜のミズゴケ群落 笠苧の湿地植生 日本最大規模のコウモリ生息洞窟 泥岩の浸食と景観破壊 海水温の上昇と珊瑚の北上	高度成長期の観光発展とその後	海の河童「甲羅法師」とウミガメ 日本初の芸能学校	企業保養所の再利用	大規模レジャー産業
旧・日置川町	暴れ川としての日置川と妖怪伝承 水晶山と安居のスギの巨木林	紀州本藍の栽培 安宅氏と熊野水軍 小山肆成：天然痘ワクチンの開発 鈴木重秋の暗渠	紀州西牟婁郡探訪雑記と怪異	原発計画の中止(笠苧)	川添茶 鮎釣り観光と鮎の加工品(鮎ちよび)
すさみ町	江崎崎や里野の暖地性植物群落 橋嶋島:オオタニワタリの自生北限 琴ノ滝の自然林	上ミ山(かみやま)古墳 (紀伊半島にある古墳の南限)	琴の滝の牛鬼 津波を避けた高台集落	財政難への挑戦	観光産業 レタス栽培の発祥地
旧・串本町	大島や潮岬の海岸低木林 沿岸部の自然林 万葉時代のハイビスカス 海水温の上昇と珊瑚礁 メタンハイドレードと船幽霊	串本の播磨 日本初の黒船来航(窪野場) トルコ船の難破と救助活動 徳本上人の六字名号碑	弘法大師伝説と大辺路	明治時代の英語教育	海老刺網漁業 マンゴー栽培と温暖化
旧・古座町	汽水城の魚類 田原湿地の希少生物と植生遷移 ミカドアゲハとオガタモノキ	小型船の造船 田原の海女 津荷漁師と有田市の矢櫃 佐部城の合戦	九龍島の海賊伝説 古座街道(司馬遼太郎) コオッタマと「河内祭」	原発計画の中止(田原)	

和歌山は手つかずの研究ネタで満載！ まずは図書館やネットで調べてみよう。興味が出たら、現場に行ってみて調べ、分析し、論文で発表する。

	自然	歴史	文化/文学(伝承)/民俗/芸能	社会/政治/経済/行政/世相	産業
古座川町	古座川と小川の水質 4種のテナガエビが同所生息 オオサンショウウオの人為分布 大森山の暖帯雨林 成見川の自然林 河岸の岩崖植生 三尾川のアルカリ水質	江戸時代の燃料林業と大地主	小説「山の天使たち」 古座街道(司馬遼太郎) 露出岩壁と奇岩伝説 うづみ坂 コオッタマと「河内祭」	明治の廃村(いの谷集落) イタリアン・スバの南限	日本最大のカーヌー観光 ニホンミツバチ ユズ栽培(実生と接ぎ木)
大地町	リュウビンタイ群落 河上、夏山の湿地植生	平維盛(たいらのこれもり)伝承 米国西海岸や豪州への移民文化	燈明崎 日本最初の灯台と捕鯨 ツールド熊野	捕鯨問題	クジラ ヒオウギ貝の養殖
那智勝浦町	棚田景観(色川、那智) 陰陽谷と那智原生林(南方熊楠) 湯川や下里の海岸低木林 宇久井のシイノトモシビダケ 海中井戸(実話)と地下水脈 地下水に棲むミズバハゼ 下里の津波の痕跡	那智山周辺の鉱山と熊野メタル詣 安倍晴明と天狗と鉱山 太田川の水利権	平家の落人伝説 獅子垣 妖怪(たたら、ダル、桂男) 中村寛之助 那智山の朋会式 世界無形遺産「那智田楽」 色川の能面と万歳楽	災害復興 グリーンピア問題 色川のターン 早い時期からの学校給食 原発計画の中止(浦神)	マグロの「延縄漁」と資源保護 サメの干物 宇久井の定置網漁 色川茶 和犬・水車プロジェクト
旧・新宮市	高田のトガサワラ林 三輪崎の海浜草本群落 俗称「かっぱ池(鉱山廃水沈砂池)」	熊野比丘尼 大逆事件 新宮鉄道	除福伝説 雨月物語：蛇性の姪 丹鶴姫(たんかくひめ)伝説 川原屋 鳩ばっばの作者、東くめ 御船島と「連玉祭」		メガソーラー 高田発電所 パイオマス発電
旧・熊野川町	白見山の自然林 嶋津の森 岩崖植生と滑床と滝と土石流 田長谷の林齢300年の人工林 ダムがあるのに透明な北山川	プロペラ船、団平船 庶民が使った古道「川丈街道」	辞職詩 みちしぼせうり 近年まで残った水葬文化	廃校再生(九重小、数屋小) 飛び小	若者主体のワークショップ観光
北山村	静閑游の岩地植生 ニホンオオカミ ニホンカワウソ	筏による材木運搬 泉眼を越えるの周辺との流域交流 下尾井遺跡	蛇伝説：久保の女小郎(こじょうろ) 近年まで残った水葬文化	飛び小 「村ふる」の成功 山村のコンビニ	じゃばら生産と花粉症観光 北山川の船の観光 かわり自転車工房

テーマは和太の教員が「手つかず」あるいは「まだまだ研究の余地がある」テーマとして選定し、一覧整理したものです。だから、他にもテーマはありますし、また、あえて「有名どころ」は外してあります。
写真&テーマ：中島敦司 (S)、湯崎真梨子 (地域機構)、テーマ：岩野清美 (L)、竹林浩志 (T)、中島正博 (E)、原祐二 (S)、福井大 (地域機構)、吉村旭輝 (紀州経済史文化史研)。携妻直樹 (北海道大学と和歌山研究林)
写真撮影場所：「表紙」「恵み」「怪し」那智勝浦町、「最初の足跡」と和歌山大学、「果無」「清らか」「分析する」「挑む」古座川町、豊嶽「白高町」、技「有田川町」、静寂「旧熊野川町」、「記録する」田辺市、「漕ぎ出す」串本町

調査に行く場合は、教員に事前相談する

誰に相談すれば良いか？

- 1) まずは担任、あるいは指導教員に相談することを考える。
- 2) 分からない時は、湯崎真梨子 (地域創造支援機構)、中島敦司 (S) に相談する。

調査前に行うこと

- 1) 教員と「何時、どこで、何を、誰が、どのように、何(道具、用具、機械など)を用いて」調査を行うかの予定を相談し、事前準備をしっかりと行う。また、生協で加入できる保険に加入しておくこと。
- 2) 緊急時のために、教員または必ず連絡の付く教員の連絡先(携帯電話など)を確認する。
- 3) 調査先でお世話になる人や共同研究者、施設がある場合、事前に調査に行くという連絡を入れ、必要に応じて立ち入りや調査の許可を得ることを怠ってはならない。

調査の最中と調査後には教員に報告する

調査中に行うこと

- 1) 調査の始まりと終わりの報告を教員へ連絡を入れる。調査には公共交通機関を使うことを原則とする。
- 2) 原則、一人では現地調査をしないこと。調査中は、教員が引率している場合は指示に従い、教員が引率していない場合はリーダーに従う。団体行動であることを忘れない。
- 3) 民地に立ち入った調査が必要な場合は立ち入りの許可を得ること。写真撮影も原則としては許可が必要である。現地で出会った人に質問する、された場合には氏名と所属、何をしているのかを説明すること。

調査後に行うこと

- 1) 借りた物品、用具などを必ず洗い、破損していないか確認し、借りたときの状態で返却する。また、破損・紛失していた場合は必ず借りた先に報告し、指示を受けて対応する。
- 2) 現地で世話になった協力者には礼状を送るなどする。

フィールド調査における注意事項

事前の準備（自然地での調査でなくても原則は同じである）

- 1) **条件把握**：天気予報の確認。荒天が予想されている場合は調査を延期する。地図の準備。
- 2) **事前学習**：現場で想定される各種危険について、事前学習し、知識を持っていくこと。
- 3) **安全な服装の準備**：季節によらず、長袖、長ズボン、手袋、ヘルメット、滑りにくい靴の着用は基本である。これらの着用により、虫さされ、かぶれ、怪我、熱中症などのリスクを小さくできる。長靴は毒ヘビから身を守る効果がある。なお、遭難した時に備え、目立つ色の服装を用意しておくことが望ましい。
- 3) **突然の天候変化への備え**：雨具、防寒具を用意しておく。タオルも用意しておくこと。
- 4) **健康管理への対応**：水分、非常食の準備と、必要薬品などを準備しておく。
- 5) **予防**：事前に入手などへのアレルギー反応を調べおく。必要に応じてエビペン（自己注射）を準備しておくこと。海外調査の場合は必要に応じて破傷風、狂犬病など予防接種を受けておくことが普通である。
- 6) **カバン**：手袋袋ではなく、リュック、ショルダーバッグ、ウエストバッグなどを使用する。両手が空いた状態で行動できるようにしておくことで、怪我のリスクを小さくでき、かつ調査効率が上がる。
- 7) **筆記具、用具など**：野外ではボールペンを活用すると雨や湿気でも消えにくい。多色であると同様に色分け印紙ができ、事後のデータ整理を助ける。ハサミ、カッターなどの刃物、ビニールテープ、油性マジック、ビニール袋、コンベックス（メジャー）、懐中電灯なども常に携帯しておくことと便利である。

フィールド全般での安全で上手な振る舞い方

- 1) **単独行動を避ける**：トラブルに巻き込まれた際、救助の方が対応がしやすい。
- 2) **不用意な動作をしない**：フィールドでは、足下が不安定な場所があり、走る、不用意に歩く、急に位置や進行方向を変えるなどの動作は避ける。草むらや穴にむやみに立ち入り手を入れたと、ハチや毒ヘビの被害に遭遇することがあるので、常に落ち着いた動作に務める。
- 3) **調査中断の判断**：調査の途中であっても日没までには安全の確保できる場所に移動しておくこと（夜間調査を除く）。暗くなってからの調査や歩行は危険である。また、急な天候変化の場合、調査を中断し、速やかに安全な位置に移動する。地震など、その他の緊急事態が発生した場合も同様である。
- 4) **水分の補給と休憩**：フィールド調査では水分、糖分、塩分の補給に注意し、定期的に休憩を取る。体力の維持だけでなく、リフレッシュ効果によって調査効率が上がることが多い。休憩だけでは体力が回復できない場面では、調査を中断し、残りの調査は延期する。疲れた状態では調査効率は上がらない。
- 5) **携帯電話の所持**：可能な限り携帯電話の所持をしないこと。圏外になることもあるので、事前に公衆電話の位置を確認しておくこと。いざいざ利用できない場所において怪我などで緊急に連絡が必要になった場面では、近隣の民家に助けを乞うなどする。
- 6) **地図の活用**：紙の地図が用意できていない場面では、携帯電話やタブレット端末からマップサービスを活用する。GPS機能のある機種では自分の現在地も確認できる。調査ポイントが事前に分かっている場合、あらかじめ地点登録しておくことと便利、かつ安全でもある。
- 7) **危険動物との遭遇の回避**：自然地の調査では、クマ、イノシシなどの危険な動物に遭遇してしまうことがある。最も適切な対応は遭遇しないことであり、クマやイノシシを携帯することが望ましい。
- 8) **カバンの上手な使い方**：特に長距離歩行が必要ない場面でカバン1つで調査を行う場合は、ショルダーバッグ、ウエストバッグの使用が調査効率を高める。用具を手探りでも取り出せることとある。長距離の歩行が必要な場合は、カバンは2つ以上を使い分け、たまに出す用具はリュックに、頻繁に取り出す用具はショルダーやウエストバッグに入れておくと良い。疲れたとき、時間的余裕が上がる。
- 7) **カメラ**：ベルトに装着すると、両手が空く上、シャッターチャンスを見逃しにくい。

場所別の一般的な注意事項

- 1) **山地、森林、草地、農地など**：山地では特に足下への注意が必要である。岩が動くこともあり、また急に崩れることもある。足下を注意して歩行するようにする。また、天候が急変することも多く、その場合は、速やかに安全な場所に避難する。草地や農地でもハチや毒ヘビには注意する。
- 2) **水辺**：水中：潜水での調査でない限り、歩行での調査でもライフジャケットの着用を原則とする。特に水中に入ってしまった調査では絶対に着る。海岸では離岸流など危険な流れ、突発的な高波に、川では急激な増水に遭遇することもあるので、決して無理な行動とならないようにする。遊泳をともなう調査であっても滑りにくいシューズ、肌が見出しにくい服装を着用し、健康と安全を確保する。

マムシ等に噛まれた場合、ハチに刺された場合の一般的な対処法

マムシ等に噛まれた場合の一般的な救急対処法

- 1) あわてず、安静にする。走ったりしない（走る毒が全身に回りやすい）。
- 2) 噛まれた傷口より心臓側を布などで縛る（毒の広がりを防ぐための軽く縛る程度に）。縛るものがない場合は、噛まれた部分は心臓の高さより下にしておく。噛まれた傷口より心臓側を布などで縛る。
- 3) 傷口から血を絞り出すようにして毒を体外に出す。
- 4) その後、傷口を冷やして腫れや毒の回りを遅らせる。
- 5) 以上の緊急処置を行いつつ、速やかに救急車を呼び、血清をもっている医療機関に連絡し、受診する。以前にマムシ等に噛まれた経験があれば、その情報は受診の際に必ず医師に伝えること。
- 注) 噛まれた直後に顕著な症状がなくとも安心せず、必ず早期に医療機関で受診する。噛まれたから3～4時間、時にはもっと経ってから重篤な症状を発症することもある。

ハチに刺された場合の一般的な救急対処法

- 1) ミツバチに刺された場合は、針を抜く（スズメバチは針が残らない）。
- 2) 水でよく洗い流し、毒を取り出すが、傷があれば血液とともに押し出す。
- 3) 流水で洗い、傷口を冷やす。
- 4) 抗ヒスタミン薬の軟膏を塗る。腫れや痛みが強い時は副腎皮質ホルモン軟膏を塗る。
- 5) 肌が赤くなったり、顔色が悪くなったり、何箇所も刺された場合、過去にハチに刺された経験がある場合は、安静にしてできるだけ早く医療機関で受診する。スズメバチに刺された場合は、状況に関わらず速やかに医療機関で受診する。

人に来て調査する場合の注意事項（文系、理系に共通）

事前の準備

- 1) **予約**：調査日時を先方に電話などで連絡し、スケジュール調整を行う。いきなりの訪問調査は避ける。可能な場合は、指導教員などから連絡してもらう。
- 2) **事前の相談、資料の送付など**：事前に、面談する目的を相手に明確に伝えておく。また、必要な資料などは相手の許可のもと、事前に送付しておく。

面談する際の注意事項

- 1) **服装**：面談の約束時間に遅れないことはもちろん、学生とはいえず、ラフ過ぎる服装での面談は避ける。
- 2) **最初の挨拶**：最初、所属、氏名を名乗り、挨拶する。
- 3) **面談調査**：面談の目的を完了させる。その上で調査を行う。
- 4) **写真撮影**：必要な場合には、必ず相手の許可を得る。モノを撮影する場合でも同様。
- 5) **終わりの挨拶**：お礼を申し述べただけでなく、事後のスケジュール案、データの取り扱い、公表の予定などの構想を示し、相談する。公表などにおいては相手の許可が必要となることもあるので注意。
- 6) **事後**：帰ったら速やかに礼状を送る。成果がまとまった際には、できれば手渡しで、それが困難な場合でも郵送などで必ず相手に成果が届くようにする。その際、礼状も同送する。

関連する科目「熊野フィールド体験A、B」（詳しくはシラバス参照）

- ☆ 実際熊野のフィールドに出向き、自然、歴史、文化、社会を学ぶ体験型の導入型の教養科目です。
- ☆ 森林体験や実地調査を通じ、自然や社会を調べる調査法を学習します。

「北海道大学和歌山研究センター（古座川町）」で実施

- ☆ 北海道と北大フィールドサイエンスセンターが「包括提携」しているからこそできる特別な科目です。
- ☆ 清流で有名な古座川の上流にある山村に宿泊してのダイナミックな課題です。人数制限あります。

和歌山を科学するためのネタ本

“オルタナティブ”な地域学を和大から（2014年度版）

発行日：2014年2月28日（初版）

編 者：湯崎真梨子

著 者：和歌山大学「学生の興味を地域に向ける学術情報冊子の作成」プロジェクトチーム
中島敦司、湯崎真梨子、揚妻直樹、岩野清美、竹林浩志、中島正博、原祐二、福井大

写 真：中島敦司、湯崎真梨子

発行者：和歌山大学教育学生支援機構



wakayama
univ.

国立大学法人
和歌山大学

和歌山大学 教育改革推進事業

「学生の興味を地域に向けた学術情報冊子の作成」プロジェクトチーム